

第6部 2019年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、さらに主な関係課を載せています。

記号： **市** **市民** **事業者**

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

森林が持つ多面的な機能について、市民の理解がさらに進むように、森林が提供する生態系サービス(※)の価値や具体例をこれまで以上に周知する必要があります。

(※)生態系サービス：生きものや自然の恵み

市

事業者

間伐等で切った木を森林内に放置するのではなく、間伐材等も木材として、またバイオマスストーブの燃料や活用しましょう。木材を材料としても活用する仕組みを作り、啓発活動をすすめることで意識変革をもたらすことを望みます。

市

市民

事業者

自然体験が多い人ほど環境意識も高いと言われています。自然体験と環境教育をうまく絡めた取組みを進めてください。(例：山歩きイベント、環境に関する映画の学校での上映)

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課
コウノトリ共生課

環境経済課
農林水産課
コウノトリ共生課

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

目標像②里山が様々な利用され、関わる人が増えています

地域の理解と需要がなければ行政は里山体験施設の維持管理も新規整備も続けることができません。地域や学校が遠足などで里山を活用する事業を計画する等、普段から里山にふれる機会を増やすことを望みます。

市

市民

山にはツキノワグマやマダニなど人の命を脅かす危険な生きものもいます。行政は対策等の情報発信を適切に行い、市民は安易に山に入ったり、むやみに恐れて敬遠したりするのではなく、正しい知識と対処法を身につけることが大切です。

市

市民

捕獲・有害駆除した野生動物の肉や皮を有効に活用する方法について、引き続き研究を進めてください。

市

市民

事業者

【主な関係課】

コミュニティ政策課
生涯学習課
農林水産課
コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

農林水産課
コウノトリ共生課

環境経済課
農林水産課

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

「コウノトリ育むお米」の地元消費は学校給食が主ですが、こども園など、より低年齢からの利用を願います。また、家庭や飲食店などでも利用を進め、市民や事業者からのおいしさや安全性の発信を期待します。

市

市民

事業者

市内で生産されているお米や野菜の「地産地消」は、域内経済の活性化につながるだけでなく、輸送の無駄を省き地球温暖化対策としても有効であるので、「地産地消」をさらに進める必要があります。

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課
こども育成課

環境経済課
コウノトリ共生課

学校給食で農業スクール卒業生や新規就農者などが生産した野菜を期間を定めて購入し、地元野菜使用率の更なる向上と生産農家としての自立支援を提案します。

市 市民 事業者

都会の人や若者等も農業に関わることができるように、使われていない農地をいろいろな人とつなぐ仕組み作りを期待します。

市 市民 事業者

農林水産課
教育総務課

環境経済課
農林水産課
農業委員会事務局

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

市民が安全に利用できる川や海辺環境を整備し、水辺空間に関心・親しみを持つ市民を増やしましょう。(例：石や流木を使った創作活動(ストーンペインティングなど)、礫河原で川の仕組みや石の観察会)

市 市民 事業者

地域の刈草の処理について、地域住民に回収と処理を依頼するだけでなく、新しい回収・運搬の仕組みや資源化(たい肥など)を検討する必要があります。(例：回収・運搬費用の助成)

市 市民 事業者

【主な関係課】

生涯学習課
コウノトリ共生課
建設課

生活環境課
農林水産課
建設課

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

オオキンケイギクやアメリカザリガニなどの外来種の適切な駆除が必要です。中でも特定外来生物の周知や駆除方法と対策などをいろいろな機会を利用して市民に伝えることが必要です。

市 市民

野外に生息するコウノトリの増加とともに、けがをする個体が増えていくことを伝え、市民や事業者に防獣ネットの適切な管理やワイヤーメッシュへの置換等の対策を進めるよう周知してください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課

農林水産課
コウノトリ共生課

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

子育て世代の若い親や外国人など地域外から来た人を含め、誰もが参加しやすい地域づくりを進め、持続可能な社会を作ることが望まれます。

市 市民 事業者

地域の祭りや行事へ子どもの参加を促すきっかけとして、子どもの興味を引くものが必要です。動機を持って参加することで地域の歴史と良さに気づき、自主的な参加の継続につながり、子どもの頃に楽しく過ごした経験が、地元と若者のつながりづくりになります。

市 市民 事業者

【主な関係課】

秘書広報課
コミュニティ政策課

コミュニティ政策課
生涯学習課

地域外から来た人と地元の人との交流は地域の多様性を広げるよい機会となります。柳まつりで地域の枠にとらわれず企業や団体等がみんなで豊岡踊りに参加しているように、接点をつくるきっかけづくりを積極的に進めてください。

市 市民 事業者

秘書広報課
コミュニティ政策課

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

生きものに詳しい人の世代交代が進んでいません。生きもの検定や生きものに詳しい子どもを表彰するなどの仕組みを作ることで生きものに興味をもつ子どもたちを育てるとともに、生きものに詳しい大人も育てることができます。

市 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

小学校低学年の自由研究は、興味の赴くまま集めたいものを集め、調べたいことを調べるという、子ども達が知る楽しさを学べる取組みとなるように望みます。

市 市民 事業者

コミュニティ政策課
こども教育課

市内の全小学校区に水田ビオトープを設置する目標を早期に達成するため、設置がない小学校区へ積極的に働きかけてください。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

生ごみの水切りや食品ロスの削減はとても価値があり、気候変動や処理費用の抑制など大きな課題と繋がっています。日々の暮らしの中で小さなことを継続することの意味を繰り返し伝えていく必要があります。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課
コウノトリ共生課

各種行事、特に飲食を提供する際のごみ分別や減量につながるガイドラインを作り、地域コミュニティのイベントの際に活用することを望みます。

市 市民 事業者

生活環境課
コミュニティ政策課

食品ロスの45%は家庭から(※1)で、そのうち野菜や果物が60%以上を占めている(※2)実態をふまえ、家庭科の調理実習で食材を無駄にしない切り方やごみの分別を指導するなど環境に配慮した啓発や教育をしてください。

市 市民 事業者

生活環境課
こども教育課

(※1)出典：農林水産省「食品ロス削減に向けて(令和2年2月)」

(※2)出典：農林水産省「平成26年度食品ロス統計調査報告(世帯調査)」

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

CO2排出抑制のため、電車やバスの利用、車の相乗りなど移動方法を考える啓発を強化してください。

市 市民 事業者

太陽光発電は再生可能エネルギーとして重要ですが、生物多様性の低下を起こさない開発とすることはもちろん、撤去時の資金の積立をするなど地域に迷惑をかけない施設にしてください。

市 市民 事業者

災害に強いまちづくりをするために、国の補助事業を活用して、災害時の避難所に指定されているコミュニティセンターに太陽光パネルと蓄電池をセットにして設置することや、移動できる電気自動車を蓄電池として活用すること等を提案します。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
都市整備課

コウノトリ共生課
都市整備課

防災課
総務課
コミュニティ政策課
コウノトリ共生課

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

事業所がエコ活動に取り組むことを宣言するエコ事業所宣言が増えるように啓発する必要があります。(例：市の補助金を使う企業への宣言義務化)

市 市民 事業者

豊岡を発信するツールとして「コウノトリ育むお米」や「コウノトリの舞認証品」を活用してさらに交流を広げることを望みます。

市 市民 事業者

農繁期や雪かき期に都会の若者や留学生などのボランティアを呼び込み、交流人口を増やす仕組みを作ってください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

環境経済課

大交流課
農林水産課

大交流課
農林水産課

(2) まとめ

第2次環境基本計画の推進3年目にあたる今回の評価は、「よくがんばりました」が2項目(目標像②⑦)、「この調子でがんばろう」が6項目(目標像①③⑤⑥⑨⑩)、「もっとがんばろう」が2項目(目標像④⑧)という結果でした。目標像④は3年つづけて「もっとがんばろう」評価で、目標像⑧の評価は昨年度からひとつ下がりました。

目標像④について環境審議会で時間をかけて議論したのは、刈草の漂着問題でした。河川敷などの清掃活動で刈り取られた大量の草が、大雨後に流失して下流域や海岸に漂着するという問題です。刈り取った現場での回収が望ましいのですが、しかし現実には労力や費用などの面から難しいという事情や、クリーンパーク北但の焼却処理能力などを勘案し、環境審議会としては“地域住民に回収と処理を依頼するだけでなく、新しい回収・運搬の仕組みや資源化(たい肥など)の検討”という提言を行ないました。最重要課題のひとつとして次年度以降も注視していきます。

目標像⑧については、家庭から排出される一人当たりのごみ量が増加している点について意見を交わし、食品ロスの削減にかかわる提言を行なっています。食品ロスの45%は家庭からで、そのうち野菜や果物が60%以上という国の調査をふまえたもので、ごみの減量化への取組みとしてのみならず、食育としても取組んで欲しいと考えています。

今回の環境報告書から、この第6部での表記の仕方を少し変更しました。環境審議会からの意見や提言に対して、取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分けて、記号を付すとともに、「市」については主な関係課を記載するようにしたのです。目標像の実現に向けた意見や提言にかかわる諸主体の連関と広がり、ひと目で把握できるようにとの思いからです。環境審議会は、諸主体の結節点となって、さまざまな取組みを支えています。

2021年2月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣
	副会長	雀部 真理
	委 員	内海 京子・木築 基弘・毛戸 勝
		島崎 邦雄・菅村 定昌・土川 忠浩
		戸田 勝之・中村 肇・西垣由佳子
		野世 英子・洞田美津子・山下 正明
		山田 博文

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号：21-9017（直）

F A X 番 号：24-7801

E - m a i l：kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：